



スイカ

品種

タヒキサカタ: 黒皮の大玉スイカの超人気品種です。病気に強くて作りやすく、重さは7～8kgにもなります。鮮やかな紅赤色、糖度は約12度、肉質は締まり、日持ち・

食味が特に優れています。

ニューこだま(タキイ): 極早生品種で、外皮は鮮緑地に濃緑の細縞が入ります。果肉は濃黄色で黄肉特有の上品な甘さがあります。生育旺盛で、低温や暑さに強いのが特徴です。

作型の例

(◆ — は種 ● — 定植 ▲ — ホットキャップ ← — 収穫)

作型	月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ホットキャップ栽培	◆		▲	▲		←	→		

本圃管理

- 4月中旬頃に基肥を全面に施し、耕起後に幅 $4m$ の畝を立て整地しておきましょう。畝に湿りのある時に、マルチをかけ、地温を高めておきましょう。

定植

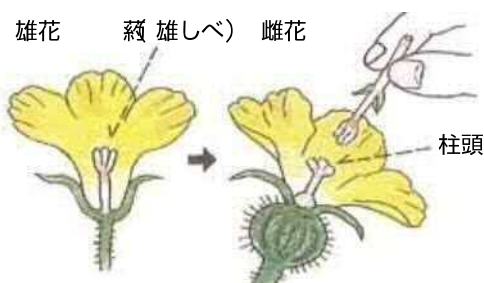
- 4月下旬に本葉 $5 \sim 6$ 枚になった苗を植え付けます。苗は接ぎ木を選ぶことをお勧めします。苗は定植の $1 \sim 2$ 時間前に十分にかん水し、接ぎ木部分が埋まらないように植えます。定植後はホットキャップかけますが、高温にならないように頂部に穴をあけて換気します。キャップの高さまで生長したら、キャップを外しましょう。

整枝

- $5 \sim 6$ 節で親づるを摘心し、勢いのよい子づる 3 本を伸ばします。子づるが $1m$ の頃に孫づると一番花を取り除き、 $18 \sim 20$ 節に三番花が着蓄した頃に孫づると 15 節以下の雄花をすべて取り除きます。

人工受粉

- 開花した日の朝 $8 \sim 9$ 時頃までに雄花の花弁を取り除き薬(ヤク)をむき出しにして雌花の柱頭に軽くなすりつけます。



育苗のポイント

- 基肥 特に窒素成分が効きすぎると着果が悪くなるので、緩効性の肥料を控えめに施します。
- 朝方 遅くとも $8 \sim 9$ 時頃までに人工受粉をしましょう。花粉が出ていることを確かめて、柱頭を傷めないよう注意しましょう。
- 受粉させる花は開花日を書いたラベルを付けると収穫の目安になります。開花後 $50 \sim 55$ 日が収穫の目安です。